

14. ヤングケアラー支援を進める上で、現在、あなたが最も課題だと感じていることは何ですか。（自由記述）

倫理的問題。いろんな倫理的ジレンマがあると思う。自律・無危害・善行などを重要視するのか。支援者によって異ならないようにしたほうがいいと思うし、そのようなジレンマがあるので支援者も悩むと思う。

ヤングケアラー本人や家族への声かけ

・ヤングケアラーではないかという判断力
・気軽に相談できる窓口

相談していいんだよと伝える機会があったらいいな

行政に相談する際、どこで相談するか。相談後の動き、連携など支援の方法がわからない。

共依存や呪縛、金銭問題

本人家族にヤングケアラーを認識してもらい問題意識を持ってもらうこと。それから各種機関と連携し支援へつなげること。

ヤングケアラーが未来に対し希望や生きていくことへの思いがなくなっていくことが課題であると思う。

どのように見分けるのか、また、アプローチはどのようにしていけば良いのか

相談のできる環境整備

以前のアンケート結果であったように当事者がヤングケアラーと感じていない。負担感じていない。こと

情報

ヤングケアラーの発見が重要と思う。

大人になってから自分自身がヤングケアラーに該当してたと気づいたように子供の頃は仮にヤングケアラーに該当してても自分自身では気づかないケースが多いと思います。そういった子供たちが自分は該当するのではないかと思えるような啓発や宣伝がまだ足りないこと

家族の理解不足、相談拒否

当事者が自分の状況を問題だと感じていないこと。「自分の置かれた状況だから仕方がない」と過剰に受容していること、状況改善をあきらめていること

家族背景を知る機会があっても介入が難しかったり、ケアマネがどこまで介入していいのか判断が難しかったりする。
課題があると判断しても、専門機関につなぐことが難しかったりする。
もっと、住民への窓口への周知やヤングケアラー支援についての理解と啓発が必要だと感じている。

自分たちの知識不足

経済的困窮支援と就労支援

情報収集の難しさ

保護者の価値観と優先順位が要介護者優先となり、ヤングケアラーになっている家族についてヤングケアラーだという認識に至っていない。また、家族だから世話をし当たり前。と言われてしまうと何と説明して良いのかと悩んだ。保護者との関係性も相談員として保ちつつ切り込むことへの難しさに直面していると感じる。

まずはヤングケアラーに気付く。そして本人家族を含め支援がある事、利用することは恥ずかしくないなど理解を深めてもらえる説明が必要。

発見後の支援ネットワークの構築や、相談窓口の拡充

SOSが出しやすい環境
本人が自分がヤングケアラーだと気づくことが前提ではありますが...

人権に対して、本人や家族が無知な状況にあること

ケアを必要とする方に既存の制度やサービスで十分なケアが届きにくいいため、必要時は市役所の関係各課でも連携をとって欲しいと感じています。

本来担わないといけない親の役目、役割をその親にどう伝えるか？理解してもらうか？

本人、家族に認識がない時の関わり方

家庭内の事なので、ナイーブな面でもあるため、ご家族や本人との信頼関係の構築をする支援方法

ヤングケアラーについて、発見する視点などを学びたい。

プライバシーの侵害などもありどこまで家庭の中に入り問題を出表することができるか？

本人や家族にどう気づいてもらい、課題意識を持ってもらうか。アプローチの仕方が難しいと感じる。

ヤングケアラー疑いの本人自身が、負担に感じている反面、自分からすすんでそれに取り組む場面もあり、共依存になっているケースがある。

課題解決に向けて、当事者が前向きになれる支援をどうすべきか悩んでいます。

関わる専門職の気づきの目

生活や金銭面のこと

疑わしい対象がいてもそこから連携できる機関の周知不足